

【第1回】

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

老化・老年病予防を目的とした 栄養疫学研究

～認知機能と脂肪酸との関連研究～

認知症先進医療開発センター
予防開発部予防栄養研究室
大塚 礼 室長

平成 22 年 6 月 10 日(木) 午後 4 時～
研究所 2 階 会議室

認知症の発症には既往歴や生活習慣、心理的要因、遺伝的素因など多くの要因が関与していると考えられている。近年、食事要因が認知機能と関連を有する可能性が報告されつつある。食事は私たち人間にとって生命維持に欠かせない行為であり、生涯を通して健康の維持・増進に重要な要素である。医学的介入によらない日々の食事摂取を介した認知機能低下予防が可能であれば、認知症予防における公衆衛生上の意義は極めて高い。

予防開発部予防栄養研究室では、微量栄養素による認知症予防を目指した栄養疫学研究として、食事由来の微量栄養素の中でも特に脂肪酸に着目し、現在、認知機能得点低下予防に関連する脂肪酸を明らかにすることを目的とした研究を行っている。具体的には、予防開発部で実施されている地域在住一般住民を対象とした「国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究(NILS-LSA)」のデータを活用し、脂肪酸摂取量と認知機能との関連を縦断的に検討している。

本報告会では、現在当センターにて実施中の NILS-LSA から得られた認知機能と脂肪酸摂取量の関連における最近の研究成果を報告する。

観察的研究により認知機能低下予防に有効と考えられる脂肪酸を明らかにした後は、認知機能改善を目的とした実証試験およびその改善効果の検証を行い、脂肪酸等の微量栄養素が認知機能改善に有用かどうかを明らかにする予定である。

本研究により、脂肪酸等の微量栄養素が認知機能の低下予防に有効である可能性が見出せた場合、サプリメントあるいは食事由来の脂肪酸摂取により認知機能低下の予防を促すことが可能であり、認知症対策に貢献できる重要な知見となると考える。

連絡先: 認知症先進医療開発センター
センター長 柳澤勝彦(内線 5002)